

News Letter

ニュースレター

2019.12 vol.114



特集◎ 進化する地下街 サカエチカと栄地区、新時代へ

生まれ変わる中川運河にアートの風、到来！
「中川運河助成 ARTtoC10」

まちづくり来ぶらり・名古屋のまち今昔 特別合併号
いとう呉服店(松坂屋)

進化する地下街 サカエチカと栄地区、新時代へ



栄の待合わせ場所の定番として親しまれるクリスタル広場。大型LEDパネルには、季節感のある映像が流れ、新たな情報発信拠点、イベントスペースとして活用される。



リニューアル後、訪れた人の多くが「サカエチカの通路、広くなった？」と感じる。天井と床に通過したランダムな光のラインが広がり演出。



地上の出入口もデザインを一新。側面を強化ガラスで囲って外気をシャットアウト。空調効率を上げる省エネ対策の一つ。

地下街の誕生

私たちの身近にあって、いつも当たり前のように歩く「地下街」。日本で本格的な地下街の建設が始まったのは1960年代の高度成長期。駅前の広場や道路といった公共用地の地下にあって、通路とそれに面した店舗等が一体となった地下施設*と定義され、鉄道駅などの都市施設と関連して発展してきたのが日本の地下街の特徴と言われています。

名古屋を代表する地下街「サカエチカ」の開業も1969年。百貨店でにぎわう栄町では交通渋滞が問題になり、歩行者の安全確保と渋滞緩和は大きな課題でした。そこで解決策として、歩行者と車を分離させる「地下街」の建

設が決定したのです。名古屋のメイン道路、広小路通と天津通の地下約14,000㎡に建設されたサカエチカは、地下鉄栄駅直結の「公共通路」として高い利便性を提供しながら、魅力ある「商業空間」づくりをすすめ、栄のまちとともに歩んできました。

訪れる人の安全と快適をかたちにしたリニューアル

楽しく快適な地下街を支えるために、なにより重要なのは「安全と安心」です。震災や火災など災害時の安全性の確保や、高齢者や身体が不自由な人たちへの配慮。2019年、開業50周年を迎え次の時代を見据えるサカエチカは、こうした課題にいち早く対応し、3年にわたる全面改装・改修を行い、

11月にリニューアルオープンしました。「地下街は何のためにあるのか—訪れる人にとって快適な公共通路、魅力ある店舗、それにどう応えるか、ユーザーの声を聴こうとアンケート調査を実施したら、次の時代の課題が見えてきた」と語るサカエチカマチ（株）前代表取締役社長、入倉憲二さん。新しくなったサカエチカは、最先端の技術でこれらの課題に对应しています。

その一つがバリアフリー化。2018年5月、地下鉄東山線栄駅とサカエチカを結ぶ北通路階段に、地下街では全国初となる斜行エレベーターを設置し、栄周辺のバリアフリー対策の先陣を切りました。防災・減災対策では、国土交通省が進める地下街防災推進事業にのっとり計画書を策定、天井パネ

*参考：「名古屋市地下街基本方針（2004.3制定、2016.8改訂）」



一目で見やすい、機能的なサインデザイン

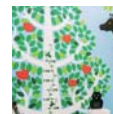


全国の地下街で初の斜行エレベーター（定員9名）。誰にとってもやさしい地下街をかたちにしたもの。大きな荷物を抱えた訪日観光客が利用することも。



授乳室やキッズトイレが設置され、あらゆる人に使いやすいトイレに。

進化する地下街 サカエチカと栄地区、新時代へ



る栄地区。サカエチカの一泊あたりの平均流入客数は10万人強。駅から地下街へ、地下街から周辺のスポットへ。誰もがバリアフリーでアクセスでき、地上と地下が相まって回遊性が向上することで、賑わいの広がりが期待できます。今回のサカエチカリニューアルは、その原動力のひとつとなって、近隣の施設とともに栄える、新たな栄の姿を描こうとしています。

ルの軽量化や耐震補強工事、避難誘導計画を策定しています。また火災時に、消防隊到着の前にファンによって強制排煙ができるよう排煙機を設置、通路排煙対策を行いました。「本来の公共通路としての安全は大前提。それに加えて居心地がよく、そぞろ歩きしたくなる地下のまちであること。それを今回のリニューアルでめざしました」。

近隣の施設とともに描く、栄の新たな時代

地下街と建物の接続には厳しい基準が設けられ、名古屋駅のミッドランドスクエアや大名古屋ビルディングなどで見られるように、接続部に吹き抜けや、地上に直接出る階段の設置などが求められてきました。しかし名古屋市

は、地下街のにぎわいや公共性を考え、また防災技術も向上したことからの基準を見直し、吹き抜け空間などによる自然排煙でなく機械設備による排煙方式でも、地下街と建物地下階との接続ができるようになりました。これは、比較的小規模な敷地が多い栄地区にとって、まちづくりの可能性を大きく広げるものです。現在進行中の日本生命栄町ビル跡地（大津通と広小路通交差点の北西）の商業施設建設では、この措置によってビルの地下とサカエチカが直結する予定。実現すれば、雨風に触れることなく、車椅子でもバリアフリーで訪れることができるようになります。

中日ビル、丸栄、栄町ビルなど続々と再開発プロジェクト構想が打ち出され



上／1969年11月 開業当時のサカエチカ。
下／1979年開業10周年を機に広場のシンボルを改修。一般公募により愛称が「クリスタル広場」に決定。

サカエチカマチ(株)提供

駅に商業施設出現！地下鉄伏見駅「ヨリマチFUSHIMI」

鉄道駅構内の活用が広がる昨今、地下鉄伏見駅に、名古屋市交通局初となる駅ナカ商業施設、「ヨリマチFUSHIMI」が開業しました。ロゴや店舗デザインも統一され、ここはもう一つの商店街。中央改札から鶴舞線南改札にかけての約900㎡のスペースに物販、軽飲食、サービスなど11店舗が並びます。

東山線・鶴舞線の2路線が乗り入れ、オフィスや文化施設が立地する多彩な要素を持つ伏見エリア。多くの人が行き交うこの街の玄関口を、通過するだけの「ミチ」から楽しい「マチ」にするのがねらいです。駅に行くこと自体が楽しみになりそうな駅ナカ空間。駅構内の積極活用は今後ますます高まりそうです。





西宮神社：名古屋市市中川区月島町11-1

地域に愛されるアートをめざす

プロジェクト部門

プロジェクト部門では、審査の評価項目の一つに「地域への根付き」という視点があります。アートの独創性はもちろん、中川運河に住まう地域の人が、アートの創作活動に参加し、関わることで「シビックプライド（地域の誇り）」を感じ、喜んでもらうことも大事な視点にしています。

◎今井 智景 シーインクスプロジェクト

クロスバウンダリー ～人と神社と運河をつなぐ

世界で活躍する名古屋出身の現代音楽作曲家・今井^{ちかひ}智景さんは、昨年より2年続けてこのプロジェクト部門で採択されました。今井さんは西宮神社の境内で野外コンサートを開催。劇場にはない荘厳な雰囲気の中、自身の作品と共に色んな音楽を様々な演出を用いて紹介。そのほとんどが初めて聴く新しい音楽でしたが、一流の音楽家たちによる競演とトークによって聴衆たちを魅了しました。

その開催を支えたのが、神社の氏子さんや周辺の工場の地域の方たち。舞台設営、受付、地元消防団による公演中の警備、工場からの協賛など、地域全体で開催をサポートしていただきました。

地域の声 Pick up

西宮神社の氏子総代
加藤四郎さん



氏子の皆さんと今井さん（写真左下）。後列右が加藤さん

初めてアートイベントを見に行った時は、作品自体の良し悪しも正直よくわからなかったよ。今井さんから神社を舞台として使いたいという申し出があった時は、神社に傷がつかないか、それこそ古い境内を舞台にして床が抜けないかと心配もあったけど、氏子みんなで相談し、よし！やろうとなった。高齢化が進む地域だけど、コンサートが人の集まる機会になり、地域外からも人が来てくれて、多くの人に西宮神社の存在を知ってもらえたことを本当に嬉しく思うよ。

アーティストを育てる

トライアル部門

トライアル部門は、中川運河の魅力向上につながるアートで、アーティストたちがチャレンジするのはもちろん、未来のアーティストとなる子どもたちと一緒に作品を作るなど、アートを通じて、地域や子どもたちとのつながりも生まれています。

◎野田 智之

中川運河に浮かぶりサイクル・アートミュージアム

ペットボトル容器など廃プラスチックを利用し、子どもたちが制作したりサイクルアートを、野田さん制作の鉄製フレームと組合せ「水上美術館」として中川運河の水面に展示しました。

太陽光パネルから発電する自然エネルギーで、夜はイルミネーションライトが点灯し、期間限定の光るアートがキャナルパークささしまの堀止に現れました。

協力：中川児童館

展示：キャナルパークささしま



「中川運河助成ARToC10」

アートックテン

名古屋都市センターでは、中川運河の魅力向上をめざし、市民交流・創造活動につながるアートへの助成を行っています。令和元年度のアート活動をご紹介します。

●シネマスコーレ

Filmusic in 中川運河・春

「春・夏・秋・冬」と中川運河の四季をテーマに短編映画を制作してきた名古屋の老舗映画館「シネマスコーレ」の支配人である木全純治さんにお話を伺いました。

Q シネマスコーレにとって、ARToC10への関わりは？

平成25年に初めて映画を撮り、6年が経つけどふりかえると中川運河というまちのアーカイブ（記録）だと思うね。俳優たちが演じる物語の中で、中川運河の美しい景色が映画として記録されてきたが、今はもう消えてしまった倉庫や風景を、唯一みることができるものになっている。

Q 中川運河で、映画を撮り続け、感じる変化はありますか？

水面や沿線の街は整備され綺麗になるたびに、古き良きたたずまいであった、倉庫群や木材集積地の景色が消えていくこと、運河の「まち」としての魅力、個性が薄れてくるのを寂しく思う。

制作面では、名古屋の市民グループのクオリティが上がってきた。これは、日本を代表する白石和彌監督など、東京からのプロの撮影チームを手伝うなど交流することで技術が向上してきたと感じるね。



木全純治さん



運河沿いにあった材木店（白石和彌監督作品より）



松重開門

●LIBERGRAPH (リベルグラフ)

水面に咲く電子植物

「ART×科学×歴史的建造物」で、松重開門の魅力を引き立たせる幻想的な青い光とプロジェクションマッピング。そこに、DJによる音楽、マルシェを組み合わせた一夜限りのアートイベント「水面に咲く電子植物」

マグネシウム電池が水と反応することで風船の中のLED電球が青白く光る科学的要素とアートを組合せ、子どもたちが思い思いの絵を描き制作した電子植物は、中川運河の水面で今年も幻想的な花を咲かせました。



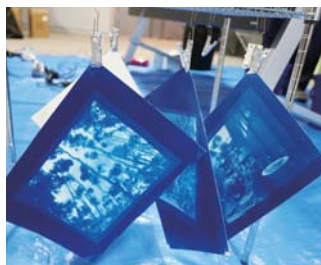
●日笠 保

アートキャンペーン NAKAGAWA CANAL



●IMPRESSION

運河と感性が交わる、 創造するアートビオトープ 「Life a water project」



●小池 陽子

MIND SCAPE 呼吸する風景



●上野 英里

"A Box Of You" ハコに入れたあなた



トライアル部門では他にも、名古屋市内の小学校で子どもたちによる作品制作が行われたり、地域の工場や企業が映像作品のロケ地や展示会場になったりするなど、近隣の人たちの協力を得てバラエティ豊かなアートが生み出されました。

まちづくり来ぶらり

第81号

名古屋のまち

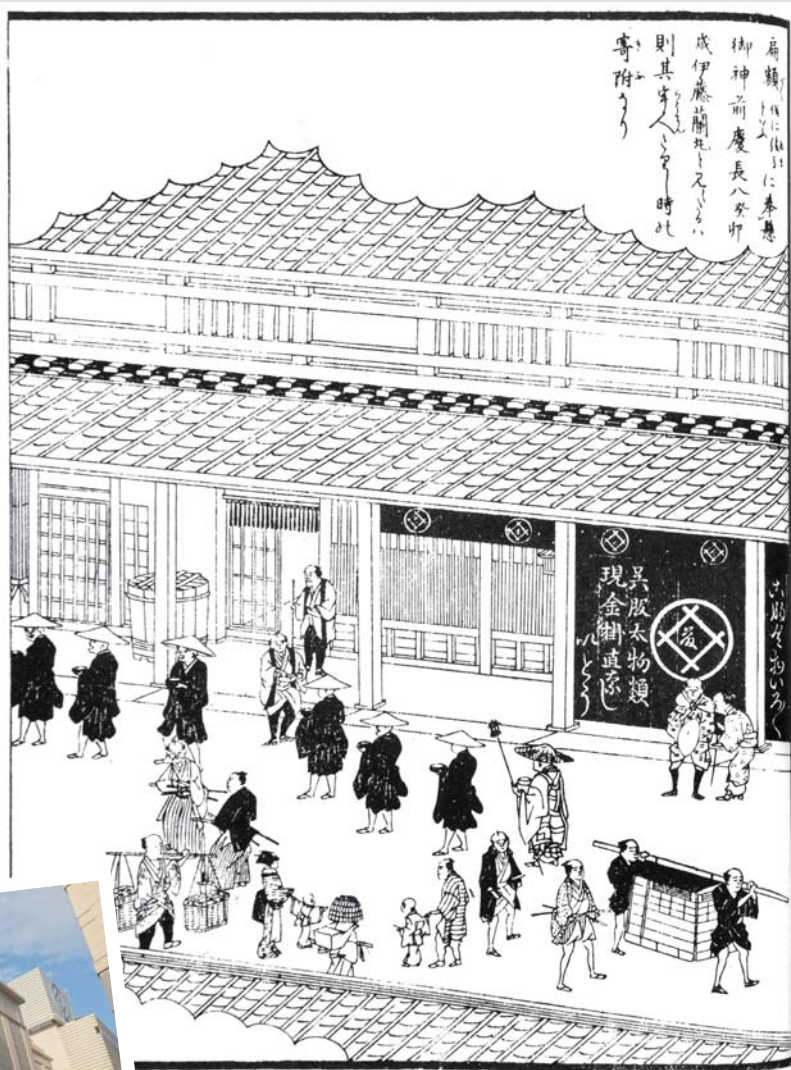
今昔

特別合併号

まちづくりライブラリー

全国に誇るまちづくりの専門図書館「まちづくりライブラリー」。

今回は当館司書が所蔵図書を用いて尾張名所図会を紐解く「まちづくり来ぶらり」と「名古屋のまち今昔」の特別合併号です。



いとう呉服店(松坂屋)

いとう呉服店の歴史は古く、江戸時代に遡ります。宗家である伊藤家は織田家に仕える武士でしたが、本能寺の変のち閑居しました。

伊藤家が商いを始めたのは初代祐道すけみちからです。祐道は清洲から名古屋へ移住した際、名古屋本町で呉服小間物問屋を始めました。祐道が大坂夏の陣で亡くなると一度店を閉じますが、遺児の祐基すけもとは名古屋茶屋町に再び呉服小間物問屋を開きます。1736(元文元)年5代祐寿すけとしの時に呉服太物小売商へ転業、1740(元文5)年には徳川家御用達となり、その後、関戸家・内田家と合わせて「三家衆」と呼ばれ有力商人の地位を確立させます。

1768(明和5)年11代祐恵すけさとは上野松坂屋を買収し江戸へ進出します。「いとう松坂屋」と名を改めたのもこの時です。

明治に入ると15代当主になる祐民すけたみ(守松)が中心となり、デパート化の流れができます。当時当主の14代祐昌すけまさや別家と呼ばれる奉公人からはデパート化への反対が多く、祐民は孤立しますが、のちに祐民の右腕となる3代目鬼頭幸七の支持と自身の固い決意から祐昌らを説得することになります。1910(明治43)年、株式会社という呉服店を創立。茶屋町から栄町角(現在のスカイルのあたり)に店舗を移し、名古屋初のデパートとしての営業を始めます。

1925(大正14)年に南大津町に新店舗を建設、新店舗の開店に合わせて社名を「いとう呉服店」から「松坂屋」へ変更しました。これは上野・銀座・大阪の店舗と名称を統一する必要性と、呉服店という名称が時代に合わなくなったためです。この時完全に江戸時代から続いた「いとう呉服店」という名がなくなり、「松坂屋」としての営業が始まりました。

『図説 鉄道パノラマ地図 (沿線案内)にみる美しき日本』

編者：石黒三郎+アイランズ
出版社：河出書房新社
請求記号：Na-1

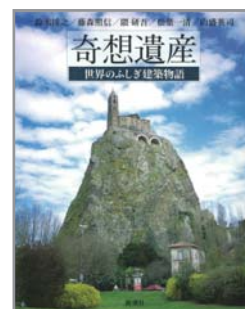
鉄道パノラマ地図とは、始発駅から終着駅までを順次に記した横長色刷りのリーフレットです。明治に開業した民営鉄道は大正から昭和初期に空前の観光ブームをもたらした。鉄道パノラマ地図が競って発行されました。本書では爆発的な人気を博した鳥瞰図絵師の吉田初三郎の作品も多く掲載されています。



『奇想遺産 世界のふしぎ建築物語』

著者：鈴木博之ほか
出版社：新潮社
請求記号：Id-ス

旅先で、珍奇な建物を見かけることがあります。本書では、古今東西に題材を求め、「奇想」というテーマに沿ったものを紹介しています。通りすぎるだけではわからなかった建物も歴史を紐解くとなると納得させられます。七つに分類された奇想遺産を巡った後には固定観念がくつがえされるかもしれません。



『団地と移民 課題最先端「空間」の戦い』

著者：安田浩一
出版社：KADOKAWA
請求記号：Jb-ヤ

かつて夢と希望の象徴だった団地は、現在、どうなっているのでしょうか。貧困、高齢者、外国人労働者が多く集まるようになった団地は、日本の社会問題の縮図です。社会問題をテーマに執筆活動が続ける著者が、団地の今を鮮やかに切りとります。その先には暗さだけではなく、外国人との共存など明るさも見えます。



◆参考文献◆

さらに詳しく知りたい方は、こちら ➡

『株式会社松坂屋50年史』

松坂屋50年史編集委員会／編 (1D-マツ-60)

『松坂屋60年史』 60年史編集委員会／編 (1D-マツ-71)

『名古屋市博物館企画展示図録 名古屋の商人

伊藤次郎左衛門 呉服屋からデパートへ』

名古屋市博物館／編 (2B40-2003)

『揚輝荘と祐民 よみがえる松坂屋創業者の理想郷』

揚輝荘の会／編著 (Sc-3)

『愛知千年企業 明治時代編『坂の上の雲』の時代を

生き抜いた名古屋商人群像』 北見昌朗／著 (Se-4)

『ナゴヤが生んだ「名」企業』 日本経済新聞社／編 (Se-2)

『マンガ 松坂屋物語 江戸時代から400年』

森哲郎／著 (Se-5)

※()内はまちづくりライブラリーの請求記号です。

1

令和元年度 賛助会員施設見学会



名古屋都市センターでは、賛助会員様向けに施設見学会を年に一度開催しています。今年度は10月30日(水)に、今年春にオープンした「歴史の里しだみ古墳群」を見学しました。

「歴史の里 しだみ古墳群」は国の史跡に指定されている「しだみ古墳群」と古墳群から出土した遺品を展示する「体感!しだみ古墳群ミュージアム(SHIDAMU)」で構成されています。教育委員会文化財保護室の案内のもと、しだみ古墳群整備事業の概要説明や、展示室ガイドツアー、古墳ガイドツアーを行いました。タブレットを使いAR・VRを通じて古墳の築造当時の姿や、1300年前の風景を楽しみながら体験することができました。

名古屋都市センターの賛助会員は、年度ごとに受付けています。各種機関誌の送付やライブラリーの施設利用特典などもありますので、当センターの活動にご理解・ご支援いただける企業・団体・学校・個人の皆様のご入会をお待ちしております。

《賛助会員の種類》

- 法人会員 (年会費 1口50,000円)
- 学校法人 (年会費 1口50,000円)
- 個人会員 (年会費 1口5,000円)

《特典》

- ・ 機関誌「アーバン・アドバンス」、広報誌「ニュースレター」の送付
- ・ 都市センター主催、企画のセミナー等の優先案内
- ・ 施設見学会
- ・ まちづくりライブラリーの利用優待
- ・ 会議室、ホール利用の優待 ほか

詳細は名古屋都市センターHPをご覧ください。

<http://www.nup.or.jp/nui/member/index.html>

2

機関紙アーバン・アドバンス
No.72発行

アーバン・アドバンスは、まちづくりに携わる広範囲な人々の論文、名古屋都市センターの研究成果、名古屋のまちづくり情報などを掲載しています。

72号(2019年9月発行)のテーマは「ICTを活用したまちづくり」です。近年、IoTやAI、ビッグデータなど、ICTが急速に進展し、多様な分野で活用に向けた取り組みが進められています。そのような中、新たな技術やデータの利活用による都市の課題解決や利便性・効率性の向上等が期待されるまちづくりの分野での取り組みについて取り上げました。



《掲載内容》

- スマート・プランニングを活用したまちづくり
東京大学大学院 教授/原田 昇
- ICTエリアマネジメントが都市を創る
株式会社日建設計総合研究所
理事 上席研究員/川除 隆広
- ICTで変わる物流
株式会社イー・ロジット 代表取締役/角井 亮一
- 国内外の先駆的事例に学ぶ日本版MaaSの作り方
モビリティジャーナリスト/楠田 悦子
- GISとジオデザイン～米国ホノルル市を事例に～
ESRIジャパン株式会社
コンサルティングサービスグループ 課長/丹羽 雄輔

※12階まちづくりライブラリーにて、販売(700円)しています。
(令和元年9月発行)

公益財団法人 名古屋まちづくり公社



名古屋都市センター
Nagoya Urban Institute

〒460-0023

名古屋市中区金山町一丁目1番1号 金山南ビル

TEL 052-678-2208

FAX 052-678-2209

<http://www.nup.or.jp/nui/>



利用案内●どなたでもご利用いただけます。

【11階】まちづくり広場
(展示スペース・ホール・喫茶コーナー)

火～金曜日: 10:00～18:00

土・日曜日・祝休日: 10:00～17:00

【12階】まちづくりライブラリー

火～木曜日: 10:00～18:00

金曜日: 10:00～20:00

土・日曜日・祝休日: 10:00～17:00

【休館日】

月曜日(祝休日の場合はその翌日)・年末年始

(まちづくりライブラリーは、上記のほか第4木曜日、特別整理期間も休館)

